

# APRICOT2025活動報告書

長崎県立大学 情報セキュリティ学部 後藤汰珠

## 目次

目次.....	1
APRICOT2025での活動目標.....	2
参加したセッション名.....	2
特に印象に残ったセッション.....	3
今回の経験を今後どう生かすか.....	4
参加支援プログラムに関する所感.....	4

# APRICOT2025での活動目標

今回APRICOT2025での目標は大きく3つある。

一つ目はAPRICOT2025の雰囲気を知り、人とのつながりを作ること。今まで私は日本国内におけるJANOGやInternetWeekといったカンファレンスに数多く参加し、登壇やコミュニティに混ざって活動することで業界で活動する様々な方と交流を深めてきた。そこで得られた縁は私がネットワークの業界で活動する上でとても重要なものとなっている。今後ネットワーク業界で活動をするにあたって私は日本国内だけでなく、海外で活動する方々の活動内容や価値観を学びながら新たな縁を結ぶことでネットワークエンジニアとしてより広い視野を持って活動できると考えたため、APRICOT2025を通じて雰囲気を知り、人とのつながりを作ることの一つ目の目標とした。

二つ目はネットワークセキュリティにおける技術的な学びを得ること。私は普段ネットワークセキュリティ分野におけるRPKIという技術の研究を行っており、今回のAPRICOT2025でもネットワークセキュリティ及びRPKIに関するセッションが用意されているため、それらのセッションに参加しAsia/Pacific地域におけるRPKIの普及状況や導入事例、技術的な課題や解決策について学びを深めることで今後の研究活動に役立てることを目標とする。

三つ目はいずれかのセッションに登壇し、英語を用いて発表を行うこと。今まで英語で登壇し発表を行ったことがなく、今回のAPRICOT2025は初めての海外カンファレンスで発表を行うことができる機会だった。セッションを聞くだけでも十分な学びとなると考えるが、こういった機会に今まで自身が行ってきた活動について公の場で話すという経験を得ることができれば今後より専門的で長い時間話す必要が出てきた際の指針や自信になると考えたため英語を用いて発表を行うことを目標とした。

## 参加したセッション名

- 2/23
  - APRICOT Fellows Skills Workshop
- 2/24
  - Opening Ceremony and Plenary
  - APRICOT Plenary
  - Opening social
- 2/25
  - APRICOT Peering Forum 1
  - APRICOT Peering Forum 2
  - APRICOT Peering Social
- 2/26
  - Lightning Talks
  - Closing Plenary
  - Closing Social
- 2/27
  - APNIC AGM 3

# 特に印象に残ったセッション

## 1. APRICOT Fellows Skills Workshop

フェローシップを用いてAPRICOT2025へ参加した方々と技術的な話ではなく、話し方やジェスチャー心の持ちようなどといったAPRICOT2025へ取り組むにあたって必要なことを学ぶことができるセッションだった。

初めて参加したセッションで日本語が一切利用されない環境はとても印象に残った。講師の方がお題をだし、そのお題に関して3~4人程度のグループでディスカッションをし全員の前で発表するパートでは英語力が足りないなりにジェスチャーや様々なツールを用いてうまくコミュニケーションを図ることができた。

最後にはフェローシップのメンバーで会食を行い、その中で連絡先の交換や名刺の交換を行うことができた。

APRICOT2025への臨み方を学んだり、縁を広げることができたセッションだった。また、自身の英語力の足りなさも深く痛感し今後の継続課題として持ち帰ることができたため深く印象に残ったセッションであった。

## 2. APRICOT Plenary(Telekom Malaysia RPKI Deployment)

Telekom MalaysiaのRPKI導入事例について語られたセッションであった。

初めはRPKIを導入するメリットや仕組みについて述べており、これらの認識は自身が今まで研究してきたものと同様であったため学んできたことと海外カンファレンスのRPKIに対する認識が同様であることを確認できた。

ROAキャッシュサーバのソフトウェア選定に関する話ではRoutinatorとFORT Validatorを利用していること、そして選定に当たっての候補として様々なソフトウェアが存在することを学ぶことができた。私の研究ではRoutinatorとrpki-clientというソフトウェアを利用しており、FORT Validatorを利用したことはなかったためこの機会にFORT ValidatorでROAキャッシュサーバを構築し、今まで利用していたソフトウェアとの差異について研究をしたいと考えた。

また、メリット以外にも現在ROAキャッシュサーバの持つ問題として、実行間隔やセッション切断の判断を行うtimer値の適切な選定方法がないこと、ソフトウェアの最新版が更新されていないものがあること、ソフトウェアを運用する上でのドキュメントが十分でないものが存在ことなど導入や運用にあたっての課題を学ぶことができた。

## 3. APRICOT Peering Forum(Peering Personals)

本セッションでは様々なIXPやISP、DC事業者が自身のASについて接続拠点やトラフィック量などに関する紹介を1分で行うというものであり、私もUniversity of Nagasakiのメンバーとして登壇し自身のASについて紹介を行った。

海外カンファレンスにおける初めての登壇でとても緊張し、少し話が詰まってしまったところもあるが、無事自身のASについて紹介をすることができた。

日本国内のIXPユーザ会のPeering Personalsでは該当のIXPと接続しているISPが自身のASについて紹介を行い「ピアしてください！」とアピールを行う場であったが、APRICOTに参加するISPはとても少なく、IXPやDC事業者が自身の拠点やサービスについてアピールを行う場であったように感じ、日本国内との違いを学ぶことができて印象に残った。

#### 4. Lightning Talks

本セッションでは10分程度でJANOG55 NOCチームにおけるバックボーンチームの活動について登壇し発表を行った。

Peering Personalよりも登壇時間が長いため台本を用意しスライドとともに発表を行うことで話を途中で詰まらせたりせずに無事発表を終えることができ、今後、英語を用いた発表を行う際の経験として学びになった。

ほかの登壇者は原稿を見ながらではなくスライドを見ながら自身の言葉で発表を行っており今後の発表ではこういった方法を用いることができるようになりたいと考えた。

## 今回の経験を今後どう生かすか

### 1. ここでできた縁を大切にし、より多くの縁を結ぶ

今回のAPRICOT2025では海外の様々な事業者で働く方々や日本籍ではあるものの海外を拠点として事業を行っている方々、そしてJPNICの皆様と多くの縁を結ぶことができた。これらは今後学生ではなく、一人のエンジニアとして社会に出た際に大きな財産となるものであると考える。今後この縁からより多くの縁を結びネットワークエンジニアとしてより多くのコミュニティ活動を続けていきたい。

### 2. 今後のルーティングセキュリティに関する研究の糧とする

Telekom MalaysiaのRPKIIに関するセッションの課題として挙げられた導入敷居の高さについて考えさせられた。技術としては今後インターネットを運用する上で必須級のものであるにもかかわらず導入の敷居が高いことは大きな問題であると考え。今後さまざまなROAキャッシュサーバソフトウェアの仕様や導入方法について調査や検証をすすめ、ノウハウを共有できるようにしたい。

### 3. より多くの情報発信を行う

今回のAPRICOT2025での登壇経験を生かし、今後は日本国内だけでなく海外でも技術や活動内容について多くの情報発信を行えるようになりたい。

## 参加支援プログラムに関する所感

JPNICから援助をいただきAPRICOT2025に参加できたことは一人のネットワークエンジニアとしてとても価値のある体験でした。

事前準備では会期中の流れやセッションの概要説明、注目すべきところについて説明をしていただき初海外カンファレンスでの不安を解消することができ、会期中はセッションや移動の案内だけでなくライトニングトーク資料の添削などもしていただきました。

多くの相談を受け持っていただいたり、チューターとして案内をしてくださったJPNICの皆様、金銭的な支援をくださった協賛企業の皆様、そしてAPRICOT2025に参加する上でお世話になった企業の皆様本当にありがとうございました。